



# 第 1258 回例会報告

【2月は世界理解月間】

平成 24年 2 月 9 日(木) 晴

## 会長挨拶

会長 三村昌暉

### 出会い

最近、つくづく思うことが有ります。それは出会いについてであります。振り返りますと、私は今までに実に多くの出会いによって助けられて来た気がしてなりません。平成 8 年、浜正一、小林強両先輩のご推薦をいただき諏訪湖ロータリー・クラブに入会させていただきました。その後に取り組んだ、まちづくりや地域づくりに関し、地元の人々にある程度ご理解とご協力をいただけるようになったのも、クラブの皆さんとの出会いや触れ合いがあったからこそと言えると思います。会員の皆さん方は、それぞれ立派に生き抜いてこられた方々です。学ぶべき点は大変多く、私の頑張る源泉と言っても言い過ぎではないと思います。

平成 15 年の夏、突然私の店に訪れ、大きな声で、「この街には素晴らしい建物が残っていますね、大切にしてください」とうったえられた、全国近代建築スケッチの旅主催者、鈴木先生との奇跡的な出会いが無ければ、上諏訪駅前商店街のまちづくりコンセプト「レトロといやしのまち看板建築ミュージアム」は生まれませんでしたし、コンセプト作りに悩んでいた私のモヤモヤした気持ち、信念から確信に変わることはなかったであります。この突然の出会いがなかったら、総額約 8 億円をかけた本町商店街修景計画も実施できなかったかもしれないのです。又、当社の店舗が、文化庁の登録有形文化財に指定されることも無かったと思います。

上諏訪商店街では、次年度事業として、かつてはこの街に存在した、歴史的建造物や、大正から昭和初期、中期の街並み等を、最先端の高度な情報処理技術を使用した、CG (コンピュータグラフィックス) によって再現し、これを活用することにより、現存する歴史的文化遗产ともいえる建造物と共に街歩き観光の資源とし、また、次世代を担う子供達に街の歴史や文化的価値を普及啓発することで、諏訪地域への愛着や誇りを高め、地域の活力向上の礎となれば良いなと思事業を展開する

予定です。また、この事業が、歴史的な文化遺産の普及啓発のモデル事業として、また歴史的観光資源を活用した新たな取り組みの模範となれば良いなと思っております。

全国でもあまり例の無い、CGを活用したこの事業のアイデアが発想出来たのも、出会いによるものであります。当家の蔵から発見され、信濃毎日新聞に掲載された、大正 12 年撮影の諏訪地方の航空写真を見た、CG製作者が写真を見たいと突然訪ねてまいりまして、CG化による再現の提案をいたしました。彼との出会いがこの事業計画発案のきっかけになりました。今日述べました出会いは、多くの出会いのほんの一例に過ぎませんが、不思議に節目々に貴重な出会いがあった。そんな気がしてなりません。

## ◇幹事報告◇

### 【連絡事項】

次年度のワーカー手帳の予約を受け付けます。一冊630円です。必要な会員は2/25までに幹事までお申し込み下さい。

### 【受領文書】

ワーカー 諏訪RC  
長野東RC ライ報告書

<p>■ニコニコ BOX</p> <p>21名 34,000円 累計 793,000円 目標額 130万円 達成率 61.0%</p> <p>■今週のことば</p>	<p>■出席報告</p> <p>会員数 33名 出席対象 33名 出席者数 25名 出席率 75.8% 前回修正 75.8%</p> <p>■次回のプログラム</p> <p>2月23日 米山留学生卓話 王曉慧さん 国際奉仕委員会</p>
--	--



## 第 1258 回例会

## 諏訪湖浄化活動の一環として始めたブナの植林

## 社会奉仕委員会

ブナの苗を植え始めて9年になりました。ブナの苗木が根付く確証がないままに始まった事業でしたが、1本も枯れることなく成長をしております。

植林を実施した場所や植林の規模を考えれば、私たちが思うほど、地域の人たちに良い影響を与えたとは思えませんが、何故か長期事業として定着することとなりました。

植林や下草刈りは普段体験することが出来ない楽しい作業です。環境に良い事をしていると云う意識も加わり少なからず新鮮な感動も与えてくれました。それらが相俟って何時の間にか9年の年月が過ぎたものと云えます。

しかし、ロータリーでは好評と云う理由で事業を何時までも続けることは出来ませんし、如何に地域が必要とする活動で在ってもロータリーだけで長期に渡り継続し続ける事は理念に反するものと思います。ブナの植林に於いても同じことが云えます。

今まで植えてきた場所が一杯になり植える所がなくなった事を機に事業の継続に関し検討を行いました。昨年、5年間で終了する事を決定しました、本日の例会で終了の道筋を示しその体制を整えたいと考えております

**27期** 今期は今までと同じ様に下中の生徒と一緒にブナの植林と手入れを行います。

## 第1期里山整備事業

熊野神社一帯の里山整備事業が24年度補助金事業として始まります。

下諏訪町と県の補助金で間伐整備がされ、委員会は事務的な手伝いをします。

ブナの植林をしながら解った事は森林が荒れたままになっている事でした。しかし、加藤さんの様に森林の整備に深く関わり熱心に取り組む人が居ることも知りました。放置されたままの森林の状況に何か良い方法はないかと考える様にもなりました。

大きな転機となったのが、西山地域での豪雨による土砂災害の発生でした。

里山整備の重要性を知り、森林税の導入による里山整備事業に関心が高まりました。災害が発生した西方地域は概ね補助金制度による里山整備は終了しております。

整備された森林は水源の涵養、土砂流失防止、二酸化炭素の吸収、動植物の生息の場などに大きな影響を与えますが、当クラブの重要なテーマである諏訪湖浄化にも大きな効果が発揮されます。整備された森林には地表に陽が当たり、草が生え、低灌木ができ、地表の流失を防いでくれます。立木は大きく根を張り、倒木

を防ぎ防災に貢献してくれます。里山の整備が重要な事は改めて云うまでもありません。

**28期** ブナの植林と手入れを下中の生徒と行う

27期に間伐した森林を森林所有者と生徒、県及び町関係職員、会員とで見学会を行う。

## 第2期里山整備事業整備区域未定

下諏訪町と県の補助金で間伐整備がされ、委員会は事務的な手伝いをします。

**29期** ブナの植林と手入れを下中の生徒と森林所有者と会員で行う

27期及び28期に間伐整備された森林を森林所有者と生徒、県及び町関係職員、会員とで見学会を行う。里山を守る会(仮称)設立準備会を発足

岡谷市の水源が近くに在り、以後継続可能であれば岡谷市民の参加を検討する。

## 第3期里山整備事業整備区域未定

下諏訪町と県の補助金で間伐整備がされ、委員会は事務的な手伝いをします。

**30期** ブナの植林と手入れを下中の生徒と里山を守る会と会員で行う

整備された森林の見学会を里山を守る会、生徒、会員、県及び町関係職員により実施

## 里山を守る会の設立

## 第4期里山整備事業整備区域未定

下諏訪町と県の補助金で間伐整備がされ、委員会は事務的な手伝いをします。

**31期** ブナの植林と手入れを下中の生徒と里山を守る会と会員で行う

ブナの植林は最終とする。

整備された森林の見学会を里山を守る会、生徒、会員、役所担当職員により実施

## 第5期里山整備事業整備区域未定

下諏訪町と県の補助金で間伐整備がされ、委員会は事務的な手伝いをします。

以後、植林や森林の手入れ、間伐整備を継続する場合には、「里山を守る会」に主催していただき、ロータリー・クラブは新しい事業に取り組む。

ブナの植林をする場所は、今までの処の沢の反対側斜面をお借りすることになりました。

苗木を植えるためには、立木の伐採作業をしなければなりません。当委員会はその為の費用はクラブで負担すると申し出をしましたが、岩村会員は、立木を処分する費用で賄うと云われそのままとなっております。この事業は諏訪湖浄化活動の一環として実施されており、諏訪湖浄化基金を充てることが可能です。